

和歌山県原水協通信

発行//原水協禁止和歌山県協議会
 〒641-0036和歌山市小松原通り3-20
 【教育会館内】
 TEL (FAX) 073-424-6533
 MAIL : wk_antiatom@wkn.or.jp

核兵器禁止条約発効を祝福!!

22日午前JR和歌山駅頭



二〇二一年一月二十二日、核兵器禁止条約が発効しました。発効を記念し歓迎する行動が全国各地で取り生まれ、「唯一の戦争被爆国である日本政府は禁止条約に参加を」のコールが全国で響き渡りました。

和歌山県下でも、禁止条約を歓迎する行動が行われました。

県原水協は、JR和歌山駅頭で「祝核兵器禁止条約」「日本政府は核兵器禁止条約に参加を」のボード立てスタンディング。又、ミニ原爆写真展、「唯一の戦争被爆国である日本政府は禁止条約に参加を」との横断幕も掲げ、市民へのアピールを行いました。

茂野県原水協理事長を始め、八人の方がハンドマイクで市民に禁止条約の発効を祝すると共に政府への条約参加を呼びかけました。コーラーの皆さん(県原水協、和教組・岩田さん、宗平協・杉浦さん、市議団・森下さん、和高教・清水さん、新婦人県・中谷さん、市新婦人市・南本さん、市議団・南畑さん)。参加者は十団体二十一人でした。

雨は止んでいましたが、コロナ禍もあり、街頭を歩く市民は少なく、新しい署名のサインは十九人にとまりました。この日、県下では数カ所で禁止条約を歓迎する行動が取りられました。(県下の行動・四面)



「核兵器禁止条約発効と 私たちの展望及び課題」 富田宏治

2021オンライン
関西原水協学校京都

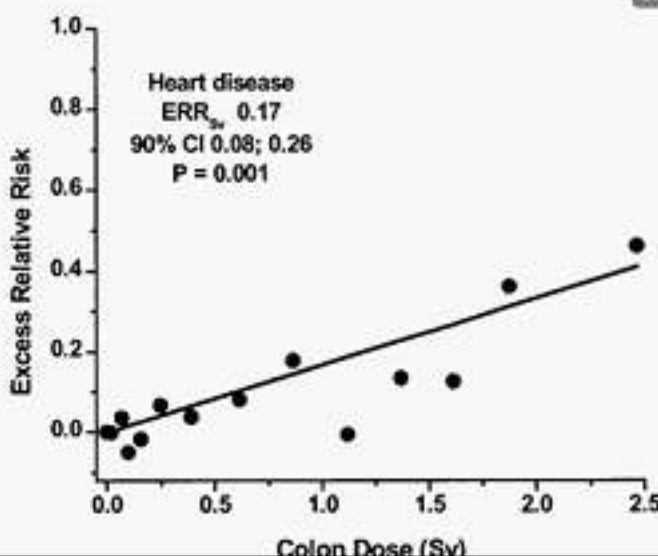
オンライン関西
原水協学校開催!!

一月二十三日(土)、関西原水協学校(オンライン)で開催されました。
第一講は、「核兵器禁止条約発効と私たちの展望及び課題」と題し、富田宏治関西学院大学教授が講演されました。一月二十二日に禁止条約が発効。核兵器の廃絶運動は新しいステージへちに入ります。日本政府の条約批准を実現させ、核保有国に核政策の根本転換を迫る時代が到来しました。核兵器禁止条約をめぐる最新の情勢と私たちの運

動課題を学びました。
第二講は、放射線障害の最新医学的知見と被爆者訴訟の支援運動を飯鍋義南医療生協診療所所長より講演いただきました。ノーマア・ヒバクシャ近畿訴訟(原爆症認定訴訟)において、飯鍋さんは放射線障害の最新の医学的知見に基づいて被爆者援護の証言をしてきました。真鍋さんの証言は、先進的な内容と精緻な被告の国の反対尋問を放棄させるほど追い込みました。低線量被爆でも被爆者の疾患の発生には関連はないという事実を研究資料を読み込み勉強して、被爆者を援護する証言を続けていきます。
オンラインのパソコン画面を食い入るように見て真鍋さんのお話をお聞きしました。オンラインの原水協学校には、和歌山から四名が参加しました。



放射線と心疾患の関係を示す、線形線量反応が示されている。線形線量反応が有意であることは、閾値がないことを一般的には示すものである。



2022年の関西原水協学校開催地は和歌山!!

NHKギャラリーわかまるで
原爆と人間 写真展を開催します。

非核の政府を求める和歌山県民の会、核戦争防止和歌山県医師の会、原水協禁止和歌山県協議会の非核三団体主催による、「原爆と人間」写真展をNHK和歌山放送局1階の「ギャラリーわかまる」において開催します。(コロナ禍の中、変更も有ります)



開催日 4月22日(木) ~24日(土)
開催時間
4月13日 10時30分~17時
4月23日-24日 10時~17時

2021国民平和行進
和歌山-広島コースの開催

コロナ禍により、状況予測できませんが、2021年の日程は、紀北・橋本伊都地域より5月7日(金)スタートする予定です。又、三重県への引き継ぎは、6月8日(火)に三重原水協と合意しています。

核兵器禁止条約がXにしたこと



3・1ビキニデー・オンライン会議に参加しましょう！ 地域原水協でも視聴会にとりくみましょう！！

2021年3月1日は、ビキニ水爆被災から67年目の日。ビキニデーに関連する行事を2月28日と3月1日にわたりオンラインで開きます。核兵器禁止条約は1月22日に発効。今年の運動の出発点として、日本政府に禁止条約への署名・批准を求める署名をはじめ、諸課題について討議・交流します。新型コロナウイルス禍、あらゆる可能性と条件を汲みつき、被災67年2021年3・1ビキニデーを成功させましょう。

核兵器禁止条約
日本政府も署名・批准を

2021年3月1日
核兵器は禁止です

2021
3・1
ビキニデー

原水協禁止日本国政府

2021年3・1ビキニデー・オンラインの実施要項
日本原水協は、3月1日の「被災67年2021年ビキニデー集会」と「壱前祭」を開催します。

【日時】
2月28日（日）2021年3・1ビキニデー日本原水協全国集会／全体集会・分科会

【テーマ】
核兵器禁止条約を力に核兵器のない世界を実現しよう
日本はただちに禁止条約に署名・批准を
ビキニ被災者の救済と補償を支援しよう

- 【原水協集会の課題】
- ◇禁止条約が発効した新たな情勢もとで、唯一の戦争被爆国、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名運動の全国的交流と飛躍をめざす。
 - ◇核保有国と「核の傘」依存国でのたたかいを前進させる。
 - ◇非核平和のアジアにとって日本の核兵器禁止条約参加は大きな意義をもつ。アジア・太平洋、日韓の運動交流、共通課題での前進をめざす。

【全体集会】
◇日時 2月28日（日）10:00
（9:30受付開始）～12:00

- ◇オンライン（200M）にて開催
- ◇主な内容 基調報告、海外からの報告、署名の全国交流、草の根運動の交流
- ◇海外代表 アメリカ、韓国、ヨーロッパ

【分科会】
◇日時 2月28日（日）14:00～16:00
◇オンライン（200M）にて開催

テーマ
（1）新しい署名の全国交流 規模：400名
（2）非核平和のアジア・太平洋 規模：400名
被災67年3・1ビキニデー・壱前祭

◇日時 3月1日（月）10:15～11:30
久保山愛吉氏壱前祭
◇主催 日本宗教者平和協議会
被災67年2021年3・1ビキニデー集会

◇日時 3月1日（月）13:00
（12:30受付開始）～15:00
◇オンライン（200M）にて開催
◇主な内容 主催者報告、ビキニ水爆実験被害者の証言、高知でのビキニ労災訴訟とビキニ被災者救援、全国の運動交流、文化企画、集会アピールの採択
◇共催 原水協禁止世界大会実行委員会、被災67年2021年3・1ビキニデー静岡県実行委員会

- 【参加費】
- 日本原水協全国集会 2月28日（日）
 - ・代表登録費1,500円（一般）
 - 500円（被爆者・学生・高校生）
 - 3・1ビキニデー集会 3月1日（月）
 - ・代表登録費 1,000円
- ※代表登録費については、事前の振り込みをお願いします。以上

アメリカ合衆国大統領
ジョー・バイデン殿
抗議文
2021年1月21日

米国の臨界前核実験に抗議文を送付（非核三団体）

非核の政府を求める和歌山県民の会
代表世話人 西村 佳三
核戦争防止和歌山県医師の会
代表世話人 奥村 明孝
原水爆禁止和歌山県協議会
理事長 茂野 和賢

貴国が2020年11月2日におこなった臨界前核実験に対し、被爆国の運動として強く抗議します。
臨界前核実験を公表したロスアラモス国立研究所の文書によれば、今回の実験の他に、あと2回の実験で得られた結果を組み合わせ、核兵器の近代化をはかることが明らかにされています。
1月22日に核兵器禁止条約が発効し、核兵器が違法化されます。貴国の行為は、核兵器のない世界の実現を願う圧倒的多数の世界の国々や世論に真っ向から反するものです。
私たちは、どんな形であれ、今後一切の核実験を行わないこと、「核態勢見直し」（NPR）による核兵器の近代化、新型核兵器の開発計画の撤回を強く要求します。同時に、貴国がこれまで誓約してきた「核兵器のない世界」の実現に向けて、核不拡散条約（NPT）再検討会議での合意事項の履行や、核兵器禁止条約への参加など、誠実に行動することを要求します。



有田市、有田川、湯浅、広川 新日本婦人の会



竜神 新日本婦人の会

10年経ちました
高校生はまっすぐです



竜神 新日本婦人の会



海南・海草 スタンディング行動 平和委員会



1月21日「ヒバクシャ国際署名をすすめる和歌山の会」の解散式

「解散式」 地域支え合いセンター生協虹
7団体8人の参加



ヒバクシャ国際署名をすすめる和歌山の会の解散について

事務局 藤澤 衝

ヒバクシャ国際署名は、核兵器禁止条約発効が間近に迫っておりヒバクシャ国際署名のニーズが国内外でかつてないほど高まっていることから、署名の受け付けを2020年12月31日まで継続し、1月初めに集約、1月中に国連に最終提出を行うことを決定しました。(2020.10.12ヒバクシャ国際署名連絡会)

2016年「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きていくうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」そのような思いから、被爆者たちがヒバクシャ国際署名スタートしました。2020年までに世界中で数億の署名目標がかかげられるなか、2017年7月7日、国連会議で核兵器禁止条約が採択されました。この動きの中、全国各地で“連絡会”が結成されました。

2019年、和歌山県内の5人の被爆者が、国際署名を

広げる呼びかけ人となり、4月30日、6月1日の2度の準備会を経て、同月19日「ヒバクシャ国際をすすめる和歌山の会」を結成しました。和歌山県内で集めてきた約3.5万筆のヒバクシャ国際署名のリスタートの位置づけで、県民多数に署名を広げる運動に取り組みこととなりました。代表世話人には、弁護士1人と医師2人が就き、個人と団体の参加に広がりをつくりました。参加団体は最終的に18の加入となりました。活動内容は経過報告に記載していますが、6・1核兵器をなくす和歌山のつどい(準備会で開催)、「Peace Wave 2019」「国連核廃絶デー」「国連軍縮週間」「平和の波」など計8度の署名宣伝行動、諸団体や個人の方々との交流・署名集約を実施してきました。

12月31日(金)に集約した署名数は78,936筆となり、目標の10万筆には届かなかったものの、県民の約9%が署名に応じていただく結果をつくりました。

また参加団体にはならないながらも、「ヒバクシャ国際署名」という同じ目標をもち、情報交換など交流もしながら共同行動できた団体・個人も多数ありました。この画期的な動きは、和歌山県内における核兵器廃絶への連帯を広げることに繋がりました。これらの実践は、「ヒバクシャ国際署名をすすめる和歌山の会」を解散したあとも、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める運動への連携を築くための確かな足がかりとなったと考えます。

現在、核兵器廃絶に向けての世界的な高まりを見せている反面、核保有国や北朝鮮の核兵器をめぐる動きなどの情勢があり、今後も粘り強い活動が求められます。被爆者の高齢化もあり、次世代による核兵器廃絶活動への意識的な取り組みが必要となります。